

資料

1. 遺構整備事例

(1) 旧陸軍調布飛行場 掩体壕大沢1号 東京都 三鷹市

ア 概要

調布飛行場は官民共同の飛行場として開設したが、戦時中は帝国陸軍の飛行場として使用された。戦争末期には米国の爆撃機を撃退するための戦闘機隊が配備され、周囲にたくさんの掩体壕が造られた。沖縄戦が始まると同戦隊は九州へ移動し偵察機だけが残された。

現在は、調布飛行場の隣接地を三鷹市と府中市にまたがる都立公園“武蔵野の森公園”として整備。園内に現存するコンクリート製の掩体壕2基を史跡として保存整備されている。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・ 掩体壕の周囲を囲むネット柵あり。
- ・ 前面開口を塞ぎ、壁面の格納された「飛燕」のイラスト。
- ・ 脇にサインを兼ねた解説板あり。
- ・ 格納時の屋外用構造模型あり。

(2) 旧日立航空機立川工場変電所跡

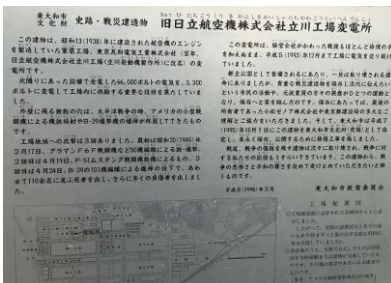
東京都 東大和市

ア 概要

旧日立航空機立川工場変電所は、昭和13年から平成5年まで使用された東京都東大和市にある変電所である。変電所外壁に無数の機銃掃射の弾痕が見られる戦災建築物。

東京都の都立公園整備事業のひとつとして、変電所の敷地を買い上げ、平成5年に都立公園内の史跡として整備。平成7年に東大和市の史跡に指定され、現在は東大和市が保存・管理を行っている。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・窓ガラスやドアなどの建具を再現。
- ・サインを兼ねた解説板あり。
- ・建物周囲に冊及び植樹あり。
- ・通常は建物内部には入れない。
- ・不定期のイベント時のみ一般に開放され内部観覧可能。
- ・建物周囲に変電所にちなんだモニュメントを設置。

(3) 歩兵第三十六連隊営門

福井県 鯖江市

ア 概要

歩兵第36連隊は、大日本帝国陸軍の連隊のひとつ。駐屯地は福井県鯖江市。明治29年に名古屋で創設され、明治30年に鯖江に移転した。連隊の兵営は現在の三六町を中心とする一帯に定められ、敷地は16haであった。

現在、武道館南側に兵営の遺構である営門の門柱2本（本来は3本）を移設整備。その奥の敷地に陸軍用地石標、大正帝行啓碑、顕彰碑や記念碑などが配置されている。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・ 門柱は現在の位置と異なる。（少し左側が本来の位置）
- ・ 解説板あり。
- ・ 顕彰碑や記念碑の集約広場あり。
- ・ 鯖江陸軍墓地にある福井県平和記念館で駐屯地全体の展示解説あり。

(4) 原爆ドーム 広島県 広島市

ア 概要

原爆ドームは、広島に投下された原子爆弾の惨禍を今に伝える記念碑（被爆建造物）である。元は広島県物産陳列館として開館し、原爆投下当時は広島県産業奨励館と呼ばれていた。設計者はチェコの建築家ヤン・レツル氏で、構造は一部鉄骨を使用した煉瓦造、石材とモルタルで外装が施されていた。

現在では、広島平和記念資料館や慰霊碑、供養塔など有する平和記念公園の軸線上の重要なモニュメントとなっており、毎年たくさんの見学者は訪れる。尚、原爆ドーム内部には立ち入ることはできない。外からの見学のみとなる。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・ “被爆した当時の姿のままであり続ける” という保存方針。
- ・ 過去3回（1967年度、1989年度、2002年度）の大きな保存工事。
- ・ 3年毎に「健全度調査」（劣化調査）を行い、「原爆ドーム保存技術委員会」で保存手法を検討。
- ・ 建物周囲を広い範囲で柵及び植栽が囲み、立ち入り禁止。
- ・ WEBで内部の様子を映像で公開。
- ・ 要所に解説板及び解説石碑あり。

(5) 富高海軍飛行場爆弾池

宮崎県 日向市

ア 概要

昭和4年、海軍呉鎮守府による富高海軍飛行場の建設が始まる。当初は常駐の飛行隊はなく、艦載機の訓練地としての使用であった。昭和18年から飛行場の規模を拡大し、昭和19年築城海軍航空隊富高分遣隊とし訓練部隊へ改編。同年11月富高海軍航空隊が発足。戦争末期には特攻作戦の中継拠点へと変貌する。

戦後、飛行場は解体。民間に開放され、現在は住宅地となっている。市街の発展とともにその痕跡は薄れ、協和病院敷地内にコンクリートの滑走路や爆弾痕が残るなどごくわずかとなっている。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・爆弾痕をそのまま保存。（当時の孔は現状よりも大きかった。）
- ・外周周囲に進入禁止の簡易柵あり。
- ・解説板などはなく、石碑のみ。
- ・病院敷地内に「特別攻撃隊出撃之地」慰霊碑あり。

(6) 旧海軍司令部壕跡

沖縄県 豊見城市

ア 概要

海軍司令部壕は、沖縄戦において帝国海軍の司令部として使用された防空壕である。昭和19年に日本海軍設営隊（山根部隊）によって掘られた司令部壕で、当時は450mあったと言われている。持久戦を続けるための地下陣地で、カマボコ型に掘り抜いた横穴をコンクリートと杭木で固め、4000人の兵士を収容した。

戦後、数回に渡る遺骨収集の後、昭和45年、観光開発事業団によって司令官室を中心に300mを復元整備。その後ビジターセンター・資料館を整備。現在では平和を発信する戦跡公園としてひろく市民に親しまれている。

イ 現況写真



ウ 整備状況

- ・平和を発信する戦跡公園として市が整備。
- ・有料。大人**440**円・小人**220**円。
- ・壕内要所に案内板や解説板あり。
- ・司令室を最低限の環境再現。各諸室は手摺りで進入制限。
- ・入口が階段のため、車椅子は届け出後出口からの入場。

2. 取組の経過

- 平成 3年 2月 2日 豊の国宇佐市塾(以下、「宇佐市塾」)が「宇佐航空隊の世界」を開催
記念講演 講師 作家 阿川弘之 氏
- 平成 4年 6月 22日 宇佐海軍航空隊の隊門1基を発見
11月 21日 宇佐市塾が「宇佐航空隊の世界Ⅱ」を開催
記念講演 講師 シナリオライター 須崎勝彌 氏
- 平成 5年 11月 12日 宇佐航空隊史跡等保存事業基金を設置
企画課が「宇佐海軍航空隊跡史跡整備検討委員会」を設置
- 平成 7年 3月 28日 城井1号掩体壕を市の史跡に指定
4月 15日 宇佐市塾が「宇佐航空隊の世界Ⅲ」を開催
記念講演 講師 兼松相談役 鈴木英夫 氏
4月 28日 城井1号掩体壕の保存整備事業として、自治省に「地域文化財保全事業」を申請
2年継続(平成7・8年度)
(事業内容) 約4900万円の事業費(起債率75%)
約3200㎡の用地買上げ、掩体壕本体の保存修理、
植栽工事、駐車場舗装、案内板・説明板設置工事
8月 1日 宇佐市塾が航空隊関係者を中心に「宇佐航空隊史跡等の保存整備をするための寄付金募集」を開始(約200万円)
9月 8日～11日 宇佐市塾と合同で「小倉そごうビル」で「宇佐航空隊の世界」を開催
- 平成 8年 5月 15日 自治省に8年度の「地域文化財保全事業」を申請
6月 27日 市開発公社と用地の売買契約締結(造成・駐車場工事など完成)
- 平成 9年 12月 24日 掩体壕本体の保存修理工事、案内板・解説板設置工事完成
- 平成 10年 3月 14日 宇佐市塾主催のフォーラム「宇佐航空隊の世界Ⅳ」を開催
記念講演 講師 元建設省事務次官 藤井治芳 氏
3月 16日 掩体壕周辺整備事業として土木課による農道拡幅工事完成
11月 17日 杵築市の琢間昭二氏より零戦のエンジン・プロペラの寄贈を受け、
掩体壕内部に公開展示
- 平成 11年 3月 8日 甲飛会(予科練関係者)による桜の植樹
4月 1日 地元の下城井地区と史跡管理委託契約を締結(以降、毎年)

- 平成 15 年 3 月 24 日 「地域振興事業調整費事業」として、滑走路跡地の市道緑地帯に石造モニュメント 16 基を設置
- 8 月 23～24 日 第 7 回「戦争遺跡保存全国シンポジウム」宇佐大会を開催
- 11 月 25 日 宇佐市甲飛会など 3 団体が平和記念碑設置の要望書を提出
- 12 月 17 日 市が上記要望書に対する回答書を送付
- 平成 16 年 3 月 25 日 商工観光課が「地域振興事業調整費事業」として、観光トイレを建設（事業費：約 960 万円）
- 8 月 18 日 第 1 回宇佐海軍航空隊滑走路跡平和記念碑設置推進委員会を開催
- 平成 17 年 1 月より 宇佐海軍航空隊滑走路跡平和記念碑設置の寄附受付開始
- 5 月上旬 宇佐市塾が「宇佐航空隊平和ウォーク」を開催(以降、毎年開催)
- 8 月 15 日 同上 完成除幕式
高居地下壕を市の史跡に指定
「平和のともしび」 開催(以降、毎年開催)
- 平成 22 年 7 月 22 日 第 1 回宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会を開催
(以降、同年 11 月まで全 3 回の委員会を開催)
- 平成 23 年 3 月 「宇佐海軍航空隊跡保存整備計画書」策定
- 11 月 九州財務局より「レンガ建物(落下傘整備所)」、「配水場(半地下式コンクリート造建物)」、「エンジン調整場」を購入(3 箇所合計 3,102 千円)
- 平成 24 年 3 月 17 日～4 月 8 日 図書館で「宇佐の戦争展～宇佐航空隊と糸口山製造所」を開催
- 3 月 23 日 第 1 回宇佐海軍航空隊跡活用計画検討委員会を開催
- 3 月 25 日 宇佐市塾主催のフォーラム「宇佐航空隊の世界 V」を開催
パネリスト 湯野川守正 氏(元神雷部隊桜花第 3 分隊隊長)
寺田晶 氏
- 6 月 18 日 宇佐市塾より、映画「永遠の 0」で使用した零戦模型購入についての要望書を受理
- 8 月 3 日 落下傘整備所の耐震検査委託契約を締結(945 千円)
- 8 月 31 日 第 1 回宇佐海軍航空隊等資料収集検討委員会で零戦模型の購入について審議、購入する必要ありと答申
- 10 月 22 日 零戦模型の購入及び宇佐市平和資料館の設営に向けて、平成 24 年度大分県地域活動支援事業費補助金の交付申請
- 10 月 30 日 宇佐市臨時議会において零戦模型購入と展示用倉庫改修の予算可決
- 11 月 1 日 大分県地域活動支援事業の交付決定を受ける(交付決定額：7,774 千円)
- 11 月 15 日 宇佐土地改良区と倉庫賃借についての契約締結
- 12 月 14 日 株式会社ロボットと零戦模型購入の契約締結(輸送費等込、約 1,300 万円)
- 12 月 21 日 第 2 回宇佐海軍航空隊等資料収集検討委員会を開催

- 平成 25 年 2 月 8 日 第 2 回宇佐海軍航空隊跡活用計画検討委員会を開催
- 3 月 29 日 「落下傘整備所」、「半地下式コンクリート建造物」、「爆弾池」を市の史跡に指定し、「蓮光寺の生き残り門」を市の登録有形文化財に登録
- 6 月 29 日 宇佐市平和資料館開館
- 7 月 20 日 宇佐市平和資料館「永遠の 0」コーナー設置記念式典
- 8 月 3 日～9 月 1 日 図書館で寄贈資料展を開催
- 9 月 18 日 宇佐市平和資料館来場 10,000 人突破記念式典
- 9 月 28 日 宇佐市平和資料館開館記念シンポジウムを開催(約 1,300 人)
(財団法人自治総合センター シンポジウム助成金 交付額 260 万円)
記念公演 講師 作家 百田尚樹 氏
パネリスト 百田尚樹氏
戸高一成氏(呉市海事歴史科学館大和ミュージアム館長)
平田崇英氏(豊の国宇佐市塾塾頭)
安田晃子氏(大分県立歴史博物館学芸調査課長 当時)
- 11 月 11 日 第 1 回宇佐海軍航空隊平和ミュージアム(仮称)構想委員会を開催
(以降、平成 26 年 11 月まで、全 9 回の委員会を開催)
- 12 月 16 日 エンジン調整場瓦礫等撤去委託契約(最終契約額 5,415 千円)
- 12 月 26 日 第 3 回宇佐海軍航空隊等資料収集検討委員会を開催
- 平成 26 年 1 月 14 日 平和資料館の入場口改修工事契約(約 1,186 千円)
- 2 月 17 日 平和資料館の門扉改修工事契約(約 1,207 千円)
- 3 月 14 日 エンジン調整場内部の瓦礫等撤去完了
- 3 月 31 日 爆弾池の用地購入(約 2,947 千円)
- 4 月 30 日 第 4 回宇佐海軍航空隊等資料収集検討委員会を開催
- 7 月 18 日～8 月 31 日 図書館で寄贈資料展「ある特攻隊員の生涯」を開催(2,445 人)
- 9 月 17 日 平和資料館来場 50,000 人突破記念式典
- 12 月 19 日 宇佐海軍航空隊平和ミュージアム(仮称)構想委員会より、「宇佐市平和ミュージアム(仮称)基本構想・基本計画」が宇佐市長に提言
- 平成 27 年 2 月 23 日 「宇佐市平和ミュージアム(仮称)基本構想・基本計画」を庁議決定
- 3 月 14 日～5 月 10 日 図書館でマンガ『宇佐海軍航空隊史』出版記念特別展を開催
- 3 月 15 日 『宇佐学マンガシリーズ 4 宇佐海軍航空隊史』出版記念フォーラム
記念公演 呉市海事歴史科学館大和ミュージアム館長 戸高一成 氏
パネリスト 戸高一成氏、是永修治氏(宇佐市長)、
平田崇英氏(豊の国宇佐市塾塾頭)
- 3 月 18 日 日米友好の木ハナミズキ植樹式を開催、城井 1 号掩体壕と滑走路跡にハナミズキ 30 本を植樹
- 5 月 19 日 第 1 回宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会を開催
- 7 月 16 日 第 2 回宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会を開催
- 10 月 8 日 正門跡の用地購入(用地費、補償費、鑑定委託他、56,146 千円)
- 10 月 27 日 第 3 回宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会を開催
- 平成 28 年 2 月 5 日 第 4 回宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会を開催

3. 宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会

(1) 委員会設置要綱

宇佐海軍航空隊跡整備計画検討委員会設置要綱

平成 27 年 4 月 23 日
教育委員会告示第 13 号

(設置)

第 1 条 宇佐海軍航空隊跡整備計画の策定に関する事項を検討するため、宇佐海軍航空隊跡整備検討委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

(職掌事務)

第 2 条 委員会は、次に掲げる事項について審議する。

- (1) 宇佐海軍航空隊の跡地取得及び跡地利用方針に関すること。
- (2) その他宇佐海軍航空隊跡整備計画の策定に関し必要な事項

(組織)

第 3 条 委員会は、別表に掲げる者を委員として組織する。

- 2 委員会に委員長及び副委員長を置き、委員長には教育長を、副委員長には教育次長をもって充てる。
- 3 委員長は、委員会を代表し、会務を統括する。
- 4 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故あるとき又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(委員の任期)

第 4 条 委員の任期は、宇佐海軍航空隊跡整備計画の策定が終了するまでとする。ただし、その職をもって選任された委員は任期中であっても、その職を離れたときは委員の職を失うものとする。

- 2 委員が欠けた場合の補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(会議)

第 5 条 委員会の会議（以下「会議」という。）は、委員長が招集し、その議長となる。

- 2 会議は、委員の半数以上の出席がなければ開くことができない。
- 3 会議の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによるものとする。

(意見の聴取)

第 6 条 委員長が必要と認めるときは、会議に委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(事務局)

第 7 条 委員会に事務局を置く。

- 2 事務局は、教育委員会社会教育課に置き、事務局長は社会教育課長をもって充てる。
- 3 事務局は、委員会に関する事務を処理する。

(補則)

第 8 条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員に諮って定める。

附 則

この告示は、公示の日から施行する。

別表（第3条関係）

区分	職名
委員長	教育長
副委員長	教育次長
委員	下城井自治区代表
〃	畑田自治区代表
〃	一区自治区代表
〃	二区自治区代表
〃	川部自治区代表
〃	宇佐市観光協会代表
〃	宇佐市甲飛会代表
〃	豊の国宇佐市塾代表
〃	宇佐の文化財を守る会代表
〃	宇佐市文化財調査委員会代表
〃	識見を有する者(3人以内)
〃	企画財政課長
〃	都市計画・高速道対策課長

(2) 委員名簿

区分	職名	氏名
委員長	教育長	近藤 一誠
副委員長	教育次長	辛島 文昭
委員	下城井自治区代表	赤坂 州男
〃	畑田自治区代表	近藤 英之
〃	一区自治区代表	東 憲夫
〃	二区自治区代表	中田 利彦
〃	川部自治区代表	相良 剛宏
〃	宇佐市観光協会代表	小野 辰浩
〃	宇佐市甲飛会代表	横光 大
〃	豊の国宇佐市塾代表	平田 崇英
〃	宇佐の文化財を守る会代表	小野 多守
〃	宇佐市文化財調査委員会代表	中間 照雄
〃	識見を有する者	乙咩 政巳
〃	〃	井上 治廣
〃	〃	安田 晃子
〃	企画財政課長	江口 弘和
〃	都市計画・高速道対策課長	川野 慎三